

水辺のふるさと かつしか 冬号

2022.9-11

自然環境レポーター通信



写真のタイトル：水面に写った紅葉とカワセミ

撮影場所：水元公園 写真提供：千葉美文さん

目次

- 1 55種の動植物調査結果P 2
- 2 自由レポートP 3～26
- 3 季節の写真集P 27～33
- 4 魚からの便りP 34～37
- 5 環境課からのお知らせP 38



担当編集からのひとこと

令和4年10月、環境課では千葉県松戸市にある21世紀の森と広場でかつしかっ子供探検隊と自然環境レポーター研修会を開催いたしました。

かつしかっ子供探検隊では、多くのアキアカネやカマキリの他、チョウトンボや葛飾区内ではなかなか見ることができないような昆虫も発見することができました。

自然環境レポーター研修会では、フジバカマに集まるアサギマダラ、イチモンジセセリ、多数のキタテハを観察することができました。晴天の青空と咲き誇るフジバカマ、そこに集まるアサギマダラたちの姿はとても美しく、素晴らしい光景でした。

秋から冬に季節が変わり、冬の野鳥も集まってきました。安全に気を付けながら、寒さ対策をして冬に見られる自然を観察していただきたいと思います。

佐藤

55種の動植物 調査結果（9月～11月）

【調査区3】計17種

- 〈鳥類〉 コサギ、シジュウカラ
- 〈昆虫〉 エンマコオロギ、カンタン、
トノサマバッタ、アブラゼミ、
ツクツクボウシ、ミンミンゼミ、
ナミアゲハ、
- 〈植物〉 アカメガシワ、スギナ、
シロツメクサ、**イモカタバミ**、
アレチウリ、カントウヨメナ、
ツユクサ
- 〈爬虫類〉 **ミシシippアカミミガメ**

【調査区5】計35種

- 〈鳥類〉 ツバメ、コガモ、ツグミ、ウグイス、コサギ、カワセミ、
コゲラ、シジュウカラ
- 〈昆虫〉 ギンヤンマ、アキアカネ、オオカマキリ、エンマコオロギ、
カンタン、トノサマバッタ、アブラゼミ、ツクツクボウシ、
ナガサキアゲハ、クロアゲハ、ナミアゲハ、ツマグロヒヨウモン、
アカボシゴマダラ
- 〈植物〉 アカメガシワ、スギナ、**シロツメクサ**、**イモカタバミ**、**アレチウリ**、
セリ、オオバコ、カントウヨメナ、ツユクサ、**ジュズダマ**、ススキ
- 〈爬虫類〉 **ミシシippアカミミガメ**、ニホンカナヘビ
- 〈クモ類〉 ジョロウグモ

【調査区2】計11種

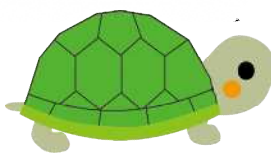
- 〈鳥類〉 ウグイス、シジュウカラ
- 〈昆虫〉 アキアカネ、
オオカマキリ、カンタン、
アブラゼミ、
ツクツクボウシ
- 〈植物〉 **ナガミヒナゲシ**、
シロツメクサ、
ジュズダマ、ススキ

【調査区4】計21種

- 〈鳥類〉 コサギ、シジュウカラ
- 〈昆虫〉 ギンヤンマ、アキアカネ、
オオカマキリ、エンマコオロギ、
アブラゼミ、ツクツクボウシ、
ナミアゲハ、ツマグロヒヨウモン
- 〈植物〉 アカメガシワ、スギナ、**シロツメクサ**、
アレチウリ、カントウヨメナ、ツユクサ、
ジュズダマ、ススキ
- 〈爬虫類〉 **ミシシippアカミミガメ**、
ニホンカナヘビ
- 〈クモ類〉 ジョロウグモ

【調査区1】計6種

- 〈昆虫〉 アブラゼミ、ツクツクボウシ、ミンミンゼミ、
ツマグロヒヨウモン
- 〈植物〉 アカメガシワ、ツユクサ



赤字は外来種だよ

今年のお夏は戦火の報道やコロナ騒動、異常気象などと感わされた年だったが、10月も末になると少しずつ落ちて着いて秋らしい気候が戻ったようである。

ほととぎすの花も特有の鶯色の花が無数に咲いて、これぞ名前の通りの花だと思ひ眺めている。もうすぐつわぶきが咲きそうである。今は蕾を重たげにして出番を待っている。この花とほととぎすが日本の秋を代表すると私は思っている。深みのある褐色とも鶯色とも紫ともつかない複雑な色と、冴え冴えした黄色は淡くて艶やかで何とも言えないと毎年観るたびに思う。

いよいよ夏の花が終わりである。彼らは半年近くも精一杯咲いて観る人を楽しませてくれた。「有難う……」心の中で感謝を言い、来年のために隅の方へ片づける。乾燥さえしなければ来年には芽を出し復活する筈である。それを年中行事のように毎年繰り返している。加齢が物思いに耽るのだ。昔は「来年の事をいうと鬼が笑う」といったけれど、今ではそんなことを言わない。

遥かな昔の事になるが明日葉の苗木を一株買ひ求めて庭に植えた。明日葉の名の通り切りとっても数日後には芽を出し、たちまち大きくなる。ハウレンソウや小松菜と一緒に茹でて浸しにする。胡麻和えなどにして賞味する。明日葉は一年置きに終焉を迎える。葉の色は瑞々しく、南国出身なのに寒いこの地で頑張る生命力に感心する。今年のお明日葉は終わりの木が数本あつて遠くから見ると種の群れは女郎花の花のようである。また鶏冠のようにも見えて、独特の姿である。

毎朝毎夕寒さが加わるから落ち葉が急激に増えた。木枯らしに吹かれた落ち葉はあちらこちらと漂っている。

彼岸花

弥生さくら草

今年の暑さは格別でいつまでも尾をひいた。コロナや暗い報道で辛い日々だった。残暑が長く続いた。彼岸にはまだ間がある或る日水撒きをしていたら草むらの中に緑色の小さな芽を見つけた。今まで彼岸花がこんなに早く芽が出たことがあったろうか？

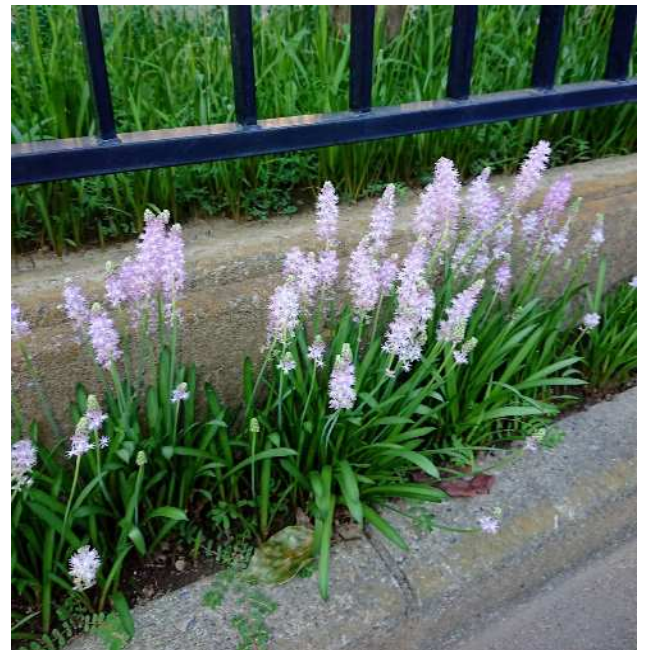
暑くても涼しくてきっちりと暦通りに咲いてきた。忘れやすい私に彼岸を教えてくれてきたのだ。律義で気味の悪いほど正確無比な花だった。そうかといって今年は例年より残暑が厳しいから面喰う。神話が崩れたのが衝撃なのだ。処々方々からこの花の花だよりも聞こえる。昔だったら忌み嫌われたこの花もやっとな市民権を得たようで今では誇らしげに艶やかに咲いている。

彼岸が済むと秋の花が早くも出番である。ほととぎすも藤袴も、秋の象徴のような名前の紫式部はもう満開である。今朝数ある草花の中に水引草が赤い実のような花をつけた。もう神無月も近い。コロナの影響で最近冠婚葬祭も控えめであるし、我が家の様な高齢者の家庭では晴れがましい宴は縁遠い。水引草を見て季節を感じるだけである。ひそやかにささやいていた秋の虫たちの鳴く声も、いつしか聴こえなくなっている。春に挿しておいた菊の花が大きくなった。茄子苗は切り詰めたら秋茄子の形容に似合うような実をつけている。今は「秋茄子は嫁に食わすな」とは決して言わないだろう。

氏名	散歩の花子	町名	西新小岩	調査区	1-4
----	-------	----	------	-----	-----

シオカラトンボ

なぜか元気がなく、じっとしていたので、私にも写真がとれました。



ツルボ / (キジカクシ科)

うす紫の一群が、テニスコートの脇に咲いています。
昔、凶作の時に、この球根が救荒食として利用されたとか・・・

氏名	散歩の花子	町名	西新小岩	調査区	1-4
----	-------	----	------	-----	-----

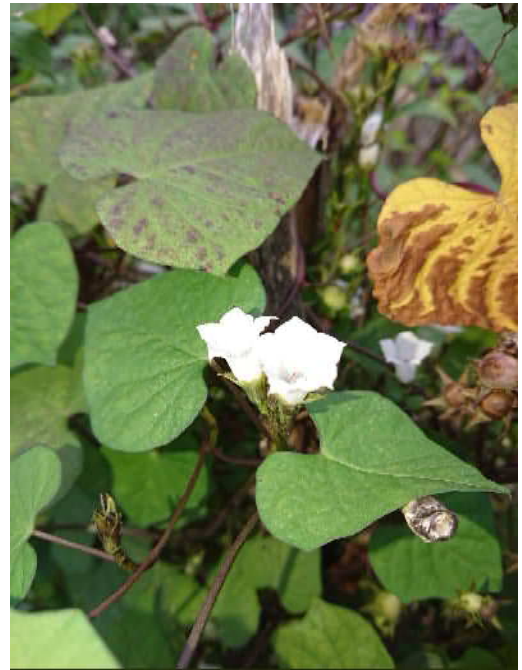


キリ/(キリ科)

平井大橋のたもと、葛飾区側に一本だけニョキっと大きな葉をゆらしています。

マメアサガオ

花の直径は、1.5cmくらいの小さい白い花のアサガオです。草生い茂る中、隠れるように咲いています。



ツマグロヒョウモン(オス)



羽を広げて日光浴かな～。
いやに動かない！
もう11月、そろそろ活動期が、終わるところかと思えます。

荒川の船の上から葛飾の「防災」と「生物多様性」を考える

広瀬 温 (調査区2)

2023年は関東大震災から100年にあたる。9月1日に向け、防災意識がさらに高まる一年になるだろう。葛飾は地震とともに水害への備えが急務である。

東京低地を水害から護る荒川放水路は明治44年(1911)着工、昭和5年(1930)完成だが、2024年に通水100年を迎える。昭和40年(1965)河川法が改正され、それまで荒川放水路と呼んでいた川を荒川と呼ぶようになったが、荒川はやはり荒川放水路と呼ぶのがふさわしい。人工の河川であるが、完成から90年を経て自然が定着し、葛飾の生物多様性に欠かせない貴重な自然景観を成している。

10月22日、荒川区景観まちづくり塾の体験ツアーで荒川～隅田川をぐるっと回った。赤羽の荒川下流河川事務所から、国交省の船で荒川を下り、荒川ロックゲートを経て、東京湾からレインボーブリッジをくぐって隅田川を尾久の原まで遡上するコースになる。

葛飾区がある左岸側に注目して進む。JR常磐線、東武伊勢崎線の鉄橋をくぐると、左岸は葛飾区になる。小菅水再生センターは葛飾区民の下水を浄化する3つの施設のひとつで、青戸地区の下水はここで処理されている。

綾瀬排水機場を過ぎ、京成本線の鉄橋をくぐる。地盤沈下により鉄道線路が沈み、堤防より線路が明らかに低い。右岸の京成関屋側



より3.5mほど低く、万一荒川が氾濫することがあれば、京成本線の鉄橋から堀切側に越流する可能性が高いという。2037年完成をめどに架け替え工事が進められているが、それまでのいざという時に備え、毎年土嚢を積み上げて越流を防ぐ訓練が行われている。



後日、河川敷を自転車で走った。荒川放水路は堤防の間が500mあり、空が広い。葛飾区内では河川敷に野球場、サッカーグラウンドが続くが、災害時に活用される堀切リバーステーションの隣の堀切水辺公園では区民ボランティアによりハナショウブが栽培され、毎年6月になると美しい花を咲かせる。

荒川の隣には中川が並行して流れ、葛飾を高潮から護る上平井水門がある。葛飾ハープ橋を過ぎると「葛飾あらかわ水辺公園」となり、JR総武線鉄橋の下流側に八つ橋が見える湿地ゾーンまで続く。荒川の自然環境と河川景観を活用し、生きものとのふれあいをテーマにワンドを整備。水生植物が自生し、河川下流域本来の生態系を保っていたが、20年を経て近接する新小岩公園の再整備に合わせ、公園の見直しが行われている。景観の多様性は豊かな生態系、生物多様性につながる。

今年も水辺の景観を見守っていきたい。

鳴く虫の女王カントンから「生物多様性」を考える

広瀬 温 (調査区2)

今年もカントンの声が聴ける季節がやってきた。9月22日、青戸平和公園の「鳴く虫の女王カントンと秋に鳴く虫を聴く会」に参加する。あいにくの雨模様のため、まずは青戸地区センターで佐々木洋さんの話を聴く。カントンをはじめ秋の虫のクイズ、前に聞いたはずなのに答えられない問題も多く、脳が柔らかい子どもがうらやましい。

雨がやみ、青戸平和公園に向かう。雨上がりのためか、いつもはうるさいほどのアオマツムシの声がそれほど大きくない。

公園中央のパーゴラに集合すると「カントンの里」の茂みから、「♪ルルルル〜」と鳴く声がする。ほぼ毎年参加しているが、これほどはっきり聴こえるのは初めてだ。



カントンはコオロギの仲間で体長11～20mmほど、マメ科のヨモギやクズなどの草むらに生息する。かつては区内で広く見られたが、ヨシなどが繁茂する湿地帯「やっから」が減り、街中から姿を消した。1993年、青戸平和公園でカントンを保護する活動が始まった。元自然環境レポーターで、長年、ボランティア活動に携われた M さんによると、保護活動の成果が実り、カントンが青戸平和公園に戻ってきたという。ここ2～3年、カントンの里での繁殖が確認されている。

「カントンの里」は2年ほど前、鬼塚公園が新たに加わり、6カ所になった。毎年、3カ所で「秋に鳴く虫を聴く会」が開かれ、10年ほど前から青戸平和公園を中心に参加しているが、他の公園でも復活が期待される。

■西亀有せせらぎ公園 カントンの里での繁殖は不明だが、周辺で生息 ■北沼公園 人気の交通公園の一角にあるカントンの里ではおそらく繁殖していないが、すぐ横の新中川河川敷でマメ科のセイタカアワダチソウなどに生息 ■新小岩公園 カントンが生息する荒川河川敷のやっからまで近いが、中川を挟んだ400mはカントンにとってとてつもなく遠い。「あらかわ水辺公園」と一体化される公園再整備に期待 ■水元スポーツセンター公園 10年ほど前に一度だけ参加し、カントンが合唱する環境に驚いた。が、スポーツセンターの改築に伴い、草むらがなくなり、カントンも消えた。区民の利便性は自然環境より優先する ■鬼塚公園 公園整備に伴い、新たに設置。何年で戻ってくるか楽しみだ。

今年は何カ所でカントンに会えるだろうか。今から、秋の夕暮れが待ち遠しい。



江戸川対岸の谷戸から「葛飾の生物多様性」を考える

広瀬 温 (調査区2)

10月29日、自然環境レポーター研修会「秋の動植物観察会」が松戸の21世紀の森と広場で開かれた。下総台地の典型的な谷戸を活かした公園は、同じ自然公園でありながら平坦な水元公園とは生物相が大きく異なる。斜面林から水が湧き出し、谷頭に溜まった搾り水が水田を潤す「里山」の風景が広がる。1993年に開園、人の手は入っているものの、生態系は豊かで生きものが循環していた。

田中利勝さんの案内で谷戸を回る。小さな水路に大きなシジミを発見。味噌汁でおなじみの汽水域に生息するヤマトシジミではなく、淡水のタイワンシジミだという。固有種のマシジミが外来種に取って変わられたのだ。3面コンクリートで固められていない水流は水生生物の揺籠。底が砂か泥か、水の流れの速さによって棲み分けている。深場には手の平サイズのドブガイがいる。



2月には浅い池にアカガエルの卵塊が出現する。冷たい水で、他の蛙に先駆けて生命をつなぐ姿に自然の循環～再生が実感できる。

水辺のハンノキにミドリシジミが集まる…トウネズミモチは外来種だがヒヨドリが寄ってくる…ケヤキは船の内装や太鼓、杵や臼に活用される…クリは縄文以来、大事な食料として栽培され、硬く、水にも強い用材として

も人の暮らしを支えている。動植物を単体ではなく、生きもの相互のつながり、人の暮らしとのつながりに目を向ける大切さを学ぶ。

田中さんは1994年に「江戸川の自然環境を考える会」を立ち上げ、四半世紀にわたって東葛地域の自然を見守ってきた。江戸川を考えると、川だけを見るのではなく、周辺の自然環境に視線を広げることが重要だという。

千駄堀池の南、武蔵野線が高架で通り過ぎる谷で、フジバカマにアサギマダラが羽を休めていた。南への渡りの途中で立ち寄ったのだろう。キタテハ、イチモンジセセリも集まり、大興奮の撮影会が始まる。TVやネット、本で得た情報は脳をすり抜けていくが、風と光を感じ、体験した光景は忘れない。

区外での開催のためか参加者7人と少人数であったが、葛飾を飛び出し、異なる自然環境の中での研修会は、葛飾にないものと、葛飾の強みを浮き彫りにし、葛飾の生物多様性戦略を深く考えるよい機会となった。

アサギマダラのサプライズ撮影会を含め、21世紀の森と広場で五感でつかんだ知識は忘れない。とても有意義な研修会だった。これからも、頭だけではなく実際に歩き、葛飾の生物多様性について考えを深めていきたい。



野鳥好き中学生による葛飾区の自然観察日記！

作成者：千葉美文

調査区域：2, 3, 5

9月

9月10日 青戸平和公園にてツミ（オス）が戻ってくる。

9月16日ごろ 青戸平和公園にてツミ（メス）が戻ってくる。

9月19日 青戸平和公園にてツミ（メス）が渡来。

9月25日 水元公園にて、絶滅危惧種ミゾゴイを見る。思ったより我々との距離が近かった。雨の日で人の少ないときには1~2mほどの距離まで近づいてきたそうだ。



←ミゾゴイ

水元公園で撮影

絶滅危惧種だが、以前新宿駅前に渡来してニュースになった。

10月

10月9日 青戸平和公園にてツミ（幼鳥）が渡来。飼われていて逃げたと思われるセキセイインコを捕食。



←閲覧注意！ セキセイインコを捕まえたツミ。下にはたくさん羽が落ちていた…。

10月11日 青戸平和公園にてツミ（メス）が渡来。

10月12日 青戸平和公園にてツミ（メス）が渡来。

10月16日 青戸平和公園にてツミ（オス）が渡来。

10月26日 青戸平和公園にてツミ（オス）が渡来。

10月30日 団地にてトラツグミを発見。青戸でトラツグミを見るのは初。

10月31日 青戸平和公園でツミ（おそらくメス）が昨日のトラツグミを食べた跡が見つかる。



←団地に渡来したトラツグミ
翌日にはツミの胃袋の中に入ることになる。

11月

11月3日 青戸平和公園にてツミ（メス）が渡来。

11月18日 青戸平和公園にてツミ（オス）が渡来。

11月12日 用事があって東京理科大学に行くと、イソヒヨドリのおスが見られた。八王子などで都会進出しているらしいが葛飾にも進出してきていることが分かった。



←イソヒヨドリ
東京だけでなく大阪にも分布を広げている。私の祖父は大阪に住んでいるのだが祖父は家の周辺でイソヒヨドリを何度か見かけたことがあり、営巣している可能性が高いらしい。葛飾ではどこに営巣しているのだろうか。

11月19日 水元公園にてカワセミ、オオタカ、ウソを見る。ウソは初めて見た。オス1羽だけ来ていた。オオタカは成鳥と幼鳥両方見た。幼鳥の方は、カラスの捕獲機に入ってしまった後、職員に助け出された後に見た。

11月22日 青戸平和公園にてツミ（オスメス両方）が渡来。

氏名：石鍋 壽一	町名：小菅	調査区：3
----------	-------	-------

2022年9月10日

ツルマメ



ツルマメ（花）

区内北西部 令和4年9月10日

ツルマメです。

豆はかなり小さいです。

アップで写真を撮ると、いわゆる「ばえる」花で、生で直接見ると、非常に小さく、点のようで、写真程には綺麗には感じないかもしれません。

ツルには毛が生えていて動物を見ているような感もするかもしれません。

氏名：石鍋 壽一

町名：小菅

調査区：3

2022年10月2日

アオツツラフジ



アオツツラフジ（雌株の実）

区内北西部 令和4年10月2日

アオツツラフジの雌株の実です。

鳥が実をすぐに食べてしまうので、今だけの楽しみです。

この季節は自然の残っているところをじっくり探すと、色々な色の付いた実を見ることができます。

この写真を撮った同じ並びでヒヨドリジョウゴの赤い実と白い花も見ることができましたし、日本の植物だけでも、すごく楽しめる季節です。

氏名：石鍋 壽一	町名：小菅	調査区：3
----------	-------	-------

2022年11月3日

ノイバラ



ノイバラ

区内北西部 令和4年11月3日

ノイバラです。

赤くなる季節になりました。

クリスマスリースのようにも見え、年末に近いことを感じます。

外来種として迷惑がられるセイタカアワダチソウ、枯れた葦も一緒です。

ノイバラはこれから葉の色も変わっていきます。

氏名：藤並 剛 町名：亀有 調査区：3

SDG84の目標には、「すべての人々に、だれでもが受けられる公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」とあり、そのアイコンは『質の高い教育をみんなに』である。

産経新聞の2022年8月27日の記事に気になる調査が載っていた。その見出しには、『読解力、デジタルより紙。文章問題、小学生初調査』とあった。「読解力を問う文章問題を、それぞれ紙とデジタル端末で小学生に出題したところ、小学3、4年の中学年以下で紙の平均点が上回ったことが26日、広島大などの研究チームの調査で分かった」また、「本を読むなら紙とデジタルのどちらが良いかを尋ねるアンケートでは、6割以上が紙を選択し、学年が上がるほど増加。平均点以上の子で顕著に高く、高学年は約8割が紙を選んだ。一方、低学年や点数の低いほどデジタルを好む傾向が見られた」という。調査は広島県内の小学校であるが、全国的にもこの傾向は見られると思う。広島大大学院の難波教授は「文章に投入し、深く読む読解力の育成には紙の方が適している可能性がある」と話していた。

『スマホ脳』の著者のハンセン氏は、〈幼児には向かないタブレット学習〉という項目で、「彼（カロリンスカ医科大学附属病院小児科のラーゲルクランツ教授）はタブレット端末が発達を助けるというアイデアには批判的で、むしろ小さい子供の場合は発達が遅れる可能性もあるという。テクノロジーがごく幼い子供にも良いとする誤った考えは、子供たちを〈小さい大人〉として見ている点にあると彼は指摘する。パズル遊びを例に取ってみよう。大人にとっては、アプリのパズルと本物のパズルにそれほど大きな違いはないだろう。一方、2歳児は本物のパズルをすることで指の運動能力を鍛え、形や材質の感覚を身につける。そういった効果はiPadでは失われてしまう」という。また、「まだ書くことを習得していない場合は、ペンを使って練習をすることで文字を覚えていく。就学前の子供を対象にした研究では、手で、つまり紙とペンで書くという運動能力が、文字を読む能力とも深く関わっていることが示されている。米国の小児科医のグループも、ラーゲルクランツと同じ主張をしている。小児科医の専門誌『Pediatrics』も、普通に遊ぶ代わりにタブレット端末やスマホを長時間使っている子供は、のちのち算数や理論科目を学ぶために必要な運動技能を習得できないと警告している」という。そして、ハンセン氏は、大学生において、手書きメモの方がPCより勝っているとも述べている。

川島氏は、『脳の力こぶ』という著書の中で、「ヒトが指先を無目的に細かく動かしているときの脳活動の様子を、脳機能イメージングによって計画しても、運動野と体性感覚しか働きません。前頭前野や頭頂連合野は、活性化しない」

という。しかし、「生活のなかでの手指を使った道具を使った道具の使用に関しては、亡霊でも何でもありません。何かを作るという、クリエイティブな作業に手指を使うときに、脳は大いに活性化するのは。道具を巧みに使いこなすことのトレーニングは、脳を鍛えるトレーニングになっている」ということだ。そして、脳と遊びの関係については、「いくつかデータをもっています。私が一番気に入っているデータは、指を使った遊びをしているときの前頭前野の活動を、近赤外計測装置を用いて計測したときのものです。子どもたちがよくやっている単純な遊びなのですが、三人以上でのこの遊びを行うと、前頭前野は大いに活性化します。しかし、二人で遊ばせるとあまり活性化しないのです。どうやら、遊びに参加する人数があるていど多く、コミュニケーションが複雑化すると、前頭前野が活性化する」という。「その他の遊びですが、けん玉や積み木といった手指を使う伝統遊びは、いずれも前頭前野をたくさん活性化することがわかりました。知恵の輪も前頭前野を活性化しました。カードを使ったゲームは面白いことに、百人一首は前頭前野を活性化しますが、ウノはまったく活性化しません。囲碁や将棋は、活性化する傾向がありましたが、オセロは強い抑制をかけます。私たちが計測したもののなかでは、日本の伝統遊びは前頭前野を活性化する傾向がある」ということだ。

ここで、囲碁や将棋という伝統遊びについて、全世代の遊びとして注目してみたい。川島氏が、囲碁や将棋は前頭前野を活性化する傾向があるということを行い、橋木氏（『遺伝か、能力か、環境か、努力か、運なのか』）が、＜チェスや囲碁の強さとIQは相関しない＞の項目で、3人の娘を一流のチェスプレーヤーに育てた結果から、「三姉妹のIQスコアは不明なので頭の良さとの関係には言及できない」としながらも、「幼い頃からチェスに親しむ環境が与えられ、親子ともどもチェスの練習、ゲームの鍛錬に励んだのは事実」と言い、努力の重要性を示唆していると主張する。囲碁や将棋について、齋藤氏は『60代からの幸福をつかむ極意』の中で、齋藤氏自身が少年時代に《へぼ将棋》でよく遊んだと回想している。静岡で子供時代を過ごした齋藤氏は、身近な自然とふれあい、友人たちと群れ遊びをし、積み木や将棋をして遊んだ中に、幸福を感じて育ったようだ。また、＜共通の興味でコミュニケーションが生まれる＞という項目では、「(定年後は、)何かの世界にのめり込むと、そこにはかならず先輩や同好の士がいて、必然的にコミュニケーションが生まれ」という。「囲碁や将棋に興味を持って碁会所や将棋道場に通うのもよくあるパターンです。そこには小学生や中学生の上位者がいて、大の大人が簡単に負けてしまったり、教えを請うたりする」ということを述べている。囲碁や将棋では、異世代交流を楽しめたり、大人が何かを教えることで、良い意味で子供たちに刺激を与えることができると思う。齋藤氏は、『最強の人生時間術』の中でも、「近所の

子どもたちに相撲や将棋などを、何かを楽しみとして教えるという人生もある」と言い、「囲碁や将棋も、人と対戦するのが醍醐味ですが、相手がいないとき、一人でもできる工夫が古くから開発され」ていると言い、一人遊びのアイテムとして良いものと主張する。また、「やっている感をもたらすのは、頭を使うか、身体を使うかです。無理なくできるのは、『手を使う』こと」だとも言っている。

産経新聞の2022年9月1日に、「囲碁の関西棋院から大阪市の小学3年生、藤田怜央初段が9月1日付けで、史上最年少の9歳4ヶ月でプロ入りする」という記事が載った。藤田君には大いに期待するが、子供にとって囲碁を打つということは、どんな効果があるのだろうか。『《碁》でグングン育つ！子どもの脳と心』の著者武川氏によると、「碁を打つことは、感情をコントロールし、計画や夢に向かって積極的かつ主体的に生きることに役立つ」というのである。

「(人間の脳には) <将来への計画や夢をつかむ>機能を司る部位があり、これは碁でいう『手をよむ』ことである。また、<構想力・想像力>は、『大局を有利に展開する思考』だ。さらに、<判断力>は、『手を考える』など、碁における状況判断を用いるもので、いずれも前頭連合野の一部である」と武川氏が言う。近年、前頭連合野が低下した子供たちが増加している。それは、少子化に伴う人間関係の希薄やデジタル端末における関係性への逃避が関係していると思われる。したがって、前頭連合野の未発達の問題となってきた。学校関係者との話し合いにおいて、『自分の非を少しも認めず、すぐに切れて暴力をふるう児童が増えている』など、自己抑制能力の低下、すなわち、前頭連合野の部位の低下につながっていると聞くことが多くなった。武川氏が様々専門家の意見を聞いたところ、切れる子や学級崩壊をおこす子は、前頭連合野の未発達が関与していることを知った。実際、碁を打つと、子供が落ち着いてきたり、物事を積極的に取り組むようになったという。「囲碁は、前頭連合野の発達のための格好のトレーニングツールである」と武川氏は主張するのだ。今回は、SDGs 4の目標を達成するには、囲碁や将棋を用いて子供たちの成長・発達をサポートすることを提案したい。それと共に大人の生きがいにもつながることも伝えたい。私も、碁会所に通うことを決めた。(2022年11月3日)

<参考・引用文献>

- ・橋本俊詔(2017)『遺伝か、能力か、環境か、努力か、運なのか』平凡社新書。
- ・川島隆太・藤原智美編著(2009)『脳のかごぶ』集英社文庫。
- ・アンデシュ・ハンセン(2020)『スマホ脳』新潮新書。
- ・齋藤孝(2011)『最強の人生時間術』祥伝社新書。
- ・齋藤孝(2022)『60代からの幸福をつかむ極意』中公新書ラクレ。
- ・武川晋太(2003)『《碁》でグングン育つ！子どもの脳と心』PHP。

● 葛飾区自然環境レポーター 自由レポート ●

調査月

2022.09～11月

名前

tanion

- 観察日 9月17日
- 調査区 5-28 (南水元)

9月になっても子育て中のスズメがいた。

電柱の柱上変圧器で営巣して、ヒナにエサを運んでいた。

この季節に巣立つヒナは、餌となる食べ物を自力で十分に得ることができるのか気になる。



- 観察日 9月17日
- 調査区 5-28 (南水元)

中川の土手で、コムラサキのオスが
縄張りに入ってきたスズメ（3羽）を
追いかけて撃退していた。（カッコいい！）
侵入者がいなくなって落ち着いて
羽を休める様子。

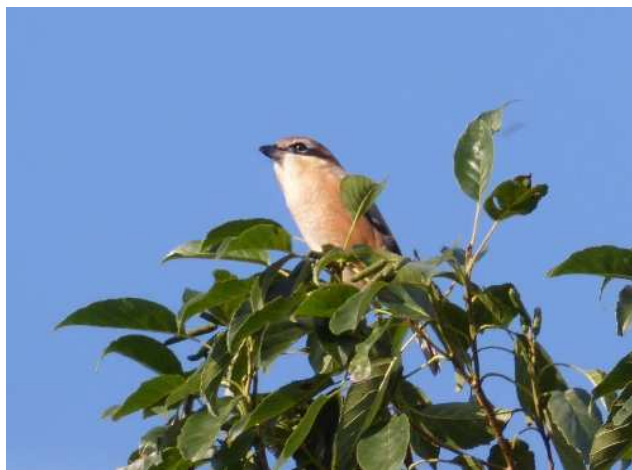


- 観察日 10月23日
- 調査区 5-26 (水元公園)

冬鳥のカモ類はヒドリガモしか確認できなかった。(オスはまだエクリプス)
暖かい日(23℃台)だったので昆虫もまだ活動中。



サツマノミダマシ



モズ



オビヒトリ幼虫



コバネイナゴ



ヒメクダマキモドキ

氏名	K・N	町名	東金町	調査区	5
(水元公園正面入口～養魚場入口間の指定種の植物と昆虫)					
鳥類は大橋周囲～小合溜					
種類	植物・蝶々・野鳥 (令和4年 9月・10月・11月)				

種類	9月	10月	11月	種類	9月	10月	11月
西洋タンポポ	1	1	8	アゲハ蝶	3	2	0
つゆ草	多数	多数	0	モンシロ蝶	2	2	4
シロツメ	多数	5	8	アオサギ	0	0	1
シジミ蝶	10	12	8	コサギ	0	1	中 1
クロアゲハ蝶	1	1	0	カモ類	10	15	300以上
				ユリカモメ	0	0	不明

昆虫情報

10月12日・公園内の水辺の生きもの科学館横の道路わきで滑って転びそうになった。熟れた柿の実が落下していた。きれいなアカボシゴマダラが実に向かってヨチヨチ近づき、蜜を吸いはじめた。花に止まる蝶はみるが果物ははじめて見た。稲田のある場所にはかかしがみられた。



10月の公園噴水前のしげみでキラキラしているので、ちかよってみると、クモの巣に露がたまっていた。クモはいなかった。

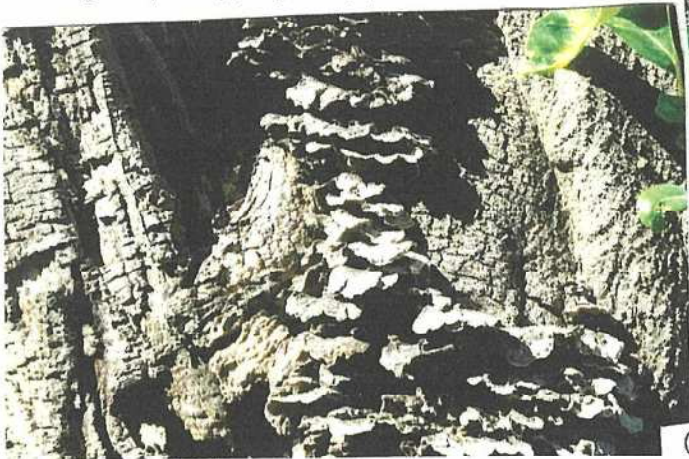


樹木情報

(10月撮影)

桜土手の桜をじっくり観察してみたら、

① 木のくぼみのキノコ



② 雑草がくぼみに根を張っている (これは初めてみた)

公園の環境

久しぶりに出席した任命式の時、担当部署から溜池の異変情報を「知らせ」とあった。九月の観察日、つりおじさんにも情報を確認し水草の写真を送った。10月にはきれいなため池となり、11月もなかった。



自然観察レポート R4/9~11月

調査区5 佐々木定治

自然の営みに感謝し、生き物と共に！



9月15日 トンボ 水元3丁目↑
10月28日 クワガタ↓

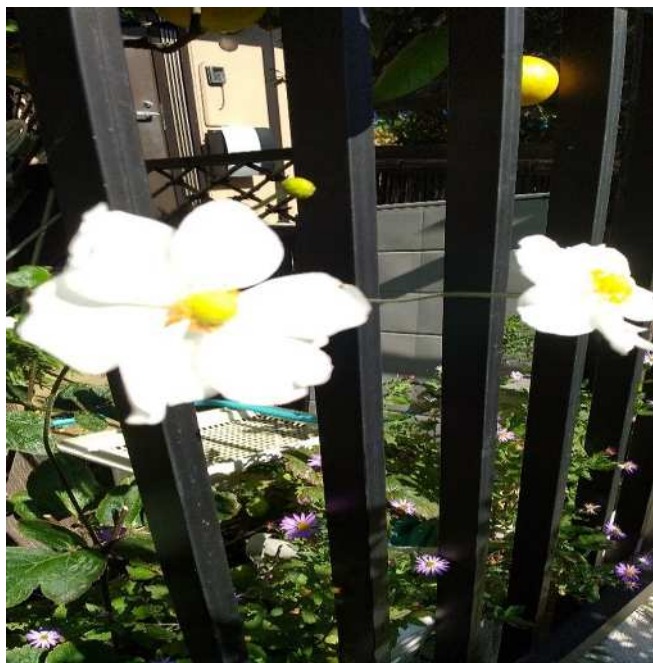


9月22日 クワガタの幼虫↑
11月8日 水元2丁目 皆既月食↓



44年ぶりの天体ショー 皆既月食と天王星食：11月8日は日本全国で感動的な天体ショーを観察することができました。勿論、私の観察エリアである調査区5でも確認できました。正に自然の営みに、感謝し驚きを覚えつつ、畏敬の念を抱きながら生き物と共に生きる自分を再発見しています。

実りの秋に命と美に出会う



10月28日 シュウメイギク↑
カマキリ↓



水元3丁目 10月29日 シオカラトンボ↑
11月9日 稲刈り↓



秋に咲くシュウメイギクの純白の花弁は「美」そのものです。地球の自然がつくりだした「美」の造形花です。この季節には、カマキリもトンボも世代を引き継ぐための独特の昆虫行動を見せてくれます。

天候も安定し、澄み切った青空も見ることができた11月9日に、ミニ田んぼの稲刈りをしました。依然としてコロナ禍は止むことなく、私は5回目の予防接種もし、インフルエンザ予防接種もしました。季節の変化は確実にあるものの、変転極まりのない世界情勢に翻弄されながらも、何とか自分を見失わず実りの秋を堪能しました。地球 地域 人 街 自然 生き物をキーワードにして、これからも力強く生き抜きます。

葛飾区自然環境レポーター 自由レポート (2022年9~11月)

氏名：江戸川の小鮒	調査区：主に5-24、5-26	町名：東金町
-----------	-----------------	--------

9月4日(日) 水元公園小合溜

小合溜の歩道と水面の際を、ウチワヤンマが行ったり来たり。パトロール？獲物を探している？少し先へ歩みを進めると、小合溜から延びた水路に種類は定かではないが、水草がびっしりと繁茂している(写真①)。ぱっと見た印象では、3種類の水草が繁茂している。外来種で繁殖力が強く、在来種を駆逐してしまう種類だとすると少し心配ですが…。

葛飾区金魚展示場近くの水辺ゾーンでは蓮の花が綺麗に咲いていた。



写真② 水辺ゾーンの蓮の花



写真① 水元公園水路内の水草

9月11日(日) 東金町7丁目 江戸川堤

17時頃江戸川堤防上を散策しているとセッカが「ヒッ、ヒッ、ヒッ」と囀りながら上昇し、「チャチャ、チャチャ」と囀りながら下降している姿を確認。上空を見ると大型の猛禽類が旋回しながら飛翔するトビが、ゆっくりゆっくりと江戸川を下流に向かって飛翔。さらに、堤防上のややこんもりした草むら内から「ルールールー」とカンタンの鳴く声。わずかな時間でしたが、様々な生き物の様子を確認できて、何だか幸せな気持ちになりました。



写真③ ヒガンバナ(白) 写真④ ヒガンバナ(赤)



写真⑤ ダイサギ

9月17日(土) 水元公園、江戸川堤

園内では白と赤のヒガンバナが咲き、多くの来園者が集まってそれぞれの写真を撮っていた(写真③④)。小合溜にはダイサギが(写真⑤)。江戸川堤防所にはトビが飛翔。

9月19日(月) 東金町7丁目 江戸川堤

16時30分、江戸川堤防上を散策すると、堤防上の草が機械できれいさっぱり刈り取られていた。はて、一週間ほど前に鳴いていたカンタンはどうしただろうか、なんとか生命をつないでくれているだろうか、と心配になった。

9月25日(日) 水元公園

グリーンプラザ内の植え込みの草花には様々なトンボ(シオカラトンボ、アキアカネ)や蝶(モンキチョウ)・昆虫(オンブバッタ)が集まっている。少し歩いて森林ゾーンに入ると、多くのバードウォッチャーが集まっているので何がいるのか尋ねると「ミゾゴイ」とのこと。望遠レンズを備えたカメラのモニター越しにその姿を見せてもらった。

水元公園から足を延ばして東金町8丁目地先江戸川堤へ。昨日までの雨の影響で江戸川は増水し、河川敷もすっかり水につかった状態になっていた。



写真⑥ モンキチョウ



写真⑦ オンブバッタ



写真⑧ 増水した江戸川河川敷

10月29日(土) 21世紀の森と広場

午前中、自然環境しポーター研修に参加。穏やかな晴天の下、講師の田中利勝氏の案内の中、様々な生き物に出会い、その神秘さ・不思議さに触れることができた素晴らしい研修会だった。



写真⑨ チョウセンカマキリ



写真⑩ 沢の二枚貝



写真⑪ カタツムリ



写真⑫ アサギマダラ



写真⑬ キタテハ

10月30日(日) 水元公園

気持ちの良い秋空の下、お弁当を持って水元公園にて「外ランチ」に行った。小合溜にはすでにたくさんの冬鳥の水鳥が集まっており、はるばるユーラシア大陸北部からはるばる日本までやってきたようだ。ヒドリガモ・キンクロハジロ・ホシハジロの姿を確認することができた。



写真⑭ 水元小合溜

11月13日(日) 自宅駐輪場



自宅の駐輪場に、ハラビロカマキリがいた。すでに気温が下がって来ていることもあってか、だいぶ動きがゆっくりしていて、弱っているのだろうか。何だか反応が弱い感じがした。

翌日姿が見えなくなっていたが、無事であってほしいものだ。

季節の写真集 (9月～11月)



「イトトンボ (茶色)」

9/3 鎌倉

名前：となり

「水を飲むハチ」

9/10 鎌倉

名前：となり



「イタドリ」

9/10 区北西部

名前：石鍋 壽一



季節の写真集（9月～11月）



「ニガカシュウ（ムカゴ）」

10/2 区北西部

名前：石鍋 壽一



「ヒルガオトリバ」

9/18 水元公園水産試験場横

名前：T・K



「彼岸花」

9/30 東堀切

名前：Ryu



「ニラ」

9/30 東堀切

名前：R

季節の写真集（9月～11月）



「モモフトトビイロサシガメ」
10/9 水元公園オニバス池横
名前：T・K

「実りの秋」
10/21 白鳥
名前：R



「早朝にいたトンボ」
10/11 亀有香取神社
名前：慶蔵

「パイナップル発芽」
10/27 お花茶屋
名前：Ry u



季節の写真集（9月～11月）

「サツマノミダマムシ」

10/23 水元公園

名前：tanion



「カナヘビ」

10/31 鎌倉

名前：となり



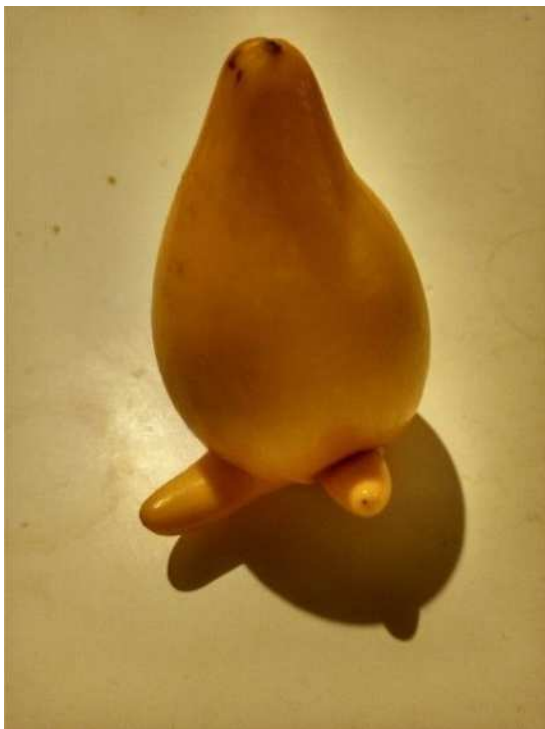
「カントウヨメナ」

11/2 区北西部

名前：石鍋 壽一



季節の写真集（9月～11月）



「寒くなりましたが、まだ子育てが続いています」
11/18 立石
名前：ゆきひめ



「フォックスフェイス」
11/6 お花茶屋
名前：Ry u

「キノコ？」
11/24 お花茶屋公園
名前：R



「ヒドリガモ」
11/12 水元公園
名前：佐々木 定治



季節の写真集（9月～11月）



「やっと会えたねウソくん」

11/19 水元公園

名前：千葉 美文

「水面に写った紅葉と
カワセミ」

11/19 水元公園

名前：千葉 美文



「ノシメトンボ」

11/27 西水元

名前：tanion

名前：高橋 雅子

季節の写真集 秋

☆ジョウビタキ (女の子)



☆マヒワ



(逆光で残念な写真ですが、今年も来たよーという証拠写真です。)

☆キンクロハジロ



葛飾柴又新八水路 魚からの便り-302

調査回数 調査日 地点	304			備 考
	2022/9/23			
	本流	新八水路	新八ワンド	
1	ア シ シ ロ ハ ゼ	3 38-41		
2	ウ ナ ギ	1 95		
3	オ イ カ ワ	10 56-115		
4	カ ダ ヤ シ	1 18	39 16-39	特定外来生物
5	ギ ン ブ ナ		2 46-70	
6	ク ロ ダ ハ ゼ	1 22		
7	コ ク チ バ ス	1 100		特定外来生物
8	ゴ ク ラ ク ハ ゼ	1 52		
9	タイリクバラタナゴ		1 22	
10	ツ チ フ キ	12 71-101		
11	ド ン コ	1 65		初採取
12	ニ ゴ イ	2 73-85		
13	ヌ マ チ チ ブ	40 17-79		
14	ボ ラ	28 100-178		
15	マ ハ ゼ	79 63-122	1 105	
16	メ ダ カ		2 22-29	
計		13種類180個体	5種類46個体	0種類0個体

・ 上段の数字は個体数、下段の数字は全長の最小-最大範囲（単位：mm）

・ 江戸川本流、新八水路、新八ワンドあわせて16種類226体の魚類が採集されました。

・ 曇一時雨、気温25.6℃、水温 本流23.5℃、新八水路22.1℃、新八ワンド(未計測) (14:30頃測定)

「参考」江戸川の水位（観測所：千葉縣市川市市川 市川根本排水機場江戸川側）
(10:00)0.69m (12:00)0.58m (14:00)1.07m

【参加者コメント】

・ 旧柴又水路前に、7月頃から、水草が生えているのに気づきましたが、誰か詳しい方いませんか。（→水草に詳しい方に確認中。）

新八水路の一番奥で、モクズガニが採れました。本流では珍しくないものの、多分、水路内では初記録です。最近土砂の堆積が激しいですから、歩いてきたんでしょか。（KI）

・ ワンドはほぼ水がなく魚の採りようがない。溜まった泥をなんとかしないと、これからもデータが取れないことが多くなりそう。（SI）

【今後の調査日】 10月9日(日) 11月5日(土) 12月10日(土)

HP (<http://shigenori1.jimdo.com/>) 新八水路「自主生物調査団」【編集：一澤成典】

葛飾柴又新八水路 魚からの便り-303

調査回数 調査日 地点	305			備 考	
	2022/10/9				
	本流	新八水路	新八ワンド		
1	ウ ナ ギ	1 93			
2	オ イ カ ワ	14 55-132			
3	オ オ ク チ バ ス	1 345			特定外来生物
4	カ ダ ヤ シ		40 12-33	10 11-20	特定外来生物
5	カ ム ル チ ー		1 157		
6	ギ ン ブ ナ		3 61-78		
7	ゲ ン ゴ ロ ウ ブ ナ	1 75	2 71-82		
8	コ ク チ バ ス	1 310			特定外来生物
9	ゴ ク ラ ク ハ ゼ	1 57			
10	ス ゴ モ ロ コ	3 78-80			
11	ス ズ キ	1 176			
12	タイリクバラタナゴ		3 22-37		
13	ツ チ フ キ	6 85-100			
14	ニ ゴ イ	12 81-125			
15	ヌ マ チ チ ブ	58 20-98			
16	ハ ス	1 109			
17	ブ ル ー ギ ル	1 61			特定外来生物
18	ボ ラ	17 105-191			
19	マ ハ ゼ	66 62-134			
20	マ ル タ	4 81-111			
21	メ ダ カ		2 27-28		
計		16種類188個体	6種類51個体	1種類10個体	

- ・ 上段の数字は個体数、下段の数字は全長の最小-最大範囲（単位：mm）
- ・ 江戸川本流、新八水路、新八ワンドあわせて21種類249体の魚類が採集されました。
- ・ 曇り、気温20.7℃、水温 本流19.3℃、新八水路19.4℃、新八ワンド20.5℃（14:40頃測）
「参考」江戸川の水位（観測所：千葉県市川市市川 市川根本排水機場江戸川側）
（10:00）0.91m（12:00）0.59m（14:00）0.69m

【参加者コメント】

- ・ 水位がかなり下がり、水たまり状になった旧航路で、カワセミが2羽、キーキー争っていた様子で、いい漁場はヒトもトリも取り合いだと思いました。（KI）
- ・ ギンブナ捕れたと思っていたら、ゲンゴロウブナ・・・修行は続く。
カムルチーは丸々太っていてふてふてしい・・・水路は定期的に投網打つ必要ありそう。（MK）
- ・ ワンドでは、水のある場所に進むまでに膝下まで泥に嵌まってしまい、諦めて戻りました。今回で3回連続です(泣)。初参加高校男子2名らが奥まで進んでいて、流石でした。本流では、今年3匹目のウナギをゲット！場所は前回、前前回よりも上流の、水路の入口を通り過ぎた辺りです。
- ・ 初参加の高校生、親子連れの参加もあり、賑やかになった。親子連れのお父さん、初投網の第一投でマハゼが採れてラッキー！（SI）

【今後の調査日】 11月5日(土) 12月10日(土)

HP (<http://shigenori1.jimdo.com/>) 新八水路「自主生物調査団」【編集：一澤成典】

葛飾柴又新八水路 魚からの便り-304

調査回数 調査日 地点		306			備 考
		2022/11/5			
		本流	新八水路	新八ワンド	
1	ア シ シ ロ ハ ゼ	1 44			
2	オ イ カ ワ	16 72-138			
3	カ ダ ヤ シ		28 12-33	9 11-33	特定外来生物
4	タイリクバラタナゴ		1 28		
5	ニ ゴ イ	4 87-150			
6	ヌ マ チ チ ブ	4 32-43			
7	ボ ラ	9 123-183			
8	マ ハ ゼ	4 102-111			
9	マ ル タ	3 93-146			
10	メ ダ カ			1 23	
計		7種類41個体	2種類29個体	2種類10個体	

- ・ 上段の数字は個体数、下段の数字は全長の最小-最大範囲（単位：mm）
- ・ 江戸川本流、新八水路、新八ワンドあわせて10種類80体の魚類が採集されました。
- ・ 晴れ時々曇り、気温17.5℃、水温 本流17.8℃、新八水路14.3℃、新八ワンド16.8℃(14:30頃測定)

「参考」江戸川の水位（観測所：千葉県市川市市川 市川根本排水機場江戸川側）
 (10:00)1.86m (12:00)1.88m (14:00)1.89m

【参加者コメント】

- ・ 朝、カラスがオオタカを追いかけていました。川の近くのヤナギの切り株の下に、ドバトの羽がいっぱい。手頃な食卓？
 風があり、濡れた手を吹かれているより、水に浸けている方が暖かい気がしましたが、とはいえ寒さが身にしみる季節になってきました。（KI）
- ・ 悲しいとき 水位がたくて網が開かないとき
 悲しいとき ごみがいっぱいういてるのに少ししか回収できなかったとき
 悲しいとき 買ったばかりのウエーダに穴があいたとき（MT）
- ・ 腰痛がひどくて測定にしか参加しなかった。冷たい水の中で遅くまで頑張った方には敬意を表す。
 昨年後半あたりからオイカワやスゴモロコなどのコイ科魚類の尾鰭の上下流に黄色味を帯びた線状の病気が寄生虫と思われる状態の魚が増えている。早く原因が判るとよい。（YK）
- ・ いつも低かったワンドの水位がそこそこあったので、たくさん採れると期待したが、アシやセイダカアワダチソウなどにワンド内の移動が邪魔された上、期待したほど採れず。（SI）

【今後の調査日】 12月10日(土)

2023年 1月21日(土) 2月19日(日) 3月25日(土) 4月8日(土)

HP (<http://shigenori1.jimdo.com/>) 新八水路「自主生物調査団」【編集：一澤成典】

葛飾柴又新八水路 魚類出現状況

No.	標準和名\地点	調査回数・日程		1-48	49-106	107-163	164-223	224-235	236-247	248~259	260~271	272~283	284~295	296	297	298	299	300	301	302	303	304	305	306																																						
		年次	回数	48回	58回	57回	60回	12回	12回	12回	12回	12回	12回	12回	2022																																															
		96-00	01-06	06/4-10	2011-15	2016	2017	2018	2019	2020	2021	1.15	2.19	3.19	4.16	5.14	6.11	7.30	8.20	9.23	10.9	11.5																																								
1	イセゴイ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
2	ウナギ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
3	ワカサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
4	アユ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
5	サケ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
6	タモロコ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
7	スゴモロコ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
8	デメモロコ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
9	ヒガイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
10	ニゴイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
11	カマツカ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
12	ツチキ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
13	モツゴ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
14	マール	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
15	ウグイス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
16	カワムツ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
17	オイカワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
18	ハス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
19	ワタ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
20	ハクレン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
21	キンブナ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
22	ギンブナ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
23	ゲンゴロウブナ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
24	フナ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
25	キンギョ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
26	コイとフナの雑種	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
27	ヤリタナゴ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
28	イチモンジタナゴ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
29	アカヒレタビラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
30	タイリクバラタナゴ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
31	ドジョウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
32	カラドジョウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
33	アメリカナマス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
34	ナマズ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
35	クルマサヨリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
36	メダカ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
37	カダヤシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
38	ボラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
39	メナダ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
40	カムルチー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
41	クロダ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
42	スズキ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
43	オクチバス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
44	コクチバス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
45	ブルギル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
46	シマイサキ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
47	ヒイラギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
48	スマチチ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
49	チチ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
50	シモフリシマハゼ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
51	ゴクラクハゼ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
52	クロダハゼ(※)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
53	ヨシノボリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
54	ウキゴリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
55	スミウキゴリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
56	ウキゴリ(型不明)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
57	マゼ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
58	アシシロハゼ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
59	ヒナハゼ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
59	ド	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																																																	
地点種類数合計		42	36	40	30	39	27	28	41	23	27	31	11	12	29	11	10	31	10	9	32	11	7	28	11	7	28	12	14	3	5	3	4	3	2	7	5	5	8	5	0	15	1	3	13	2	3	17	6	2	14	4	3	13	5	0	16	6	1	7	2	2

●●初採取 ※:和名がヨシノボリ(橙色型)からクロダハゼに変わりました。

環境課からのお知らせ

自然環境係 電話5654-8237 (直通)

自然環境レポーター研修会を開催しました

令和4年10月29日(土)、今回は千葉県松戸市にある21世紀の森と広場で「秋の動植物観察会」を開催しました。木々の生い茂る小道を歩いたり、林から湧き出る小川をより身近に感じられたり等、葛飾区とは違った自然環境で観察することができました。また動植物そのものについてだけでなく、地形(谷津)についてや他の動植物との関わり、昔はどのように活用されていたか等、多様な面から解説いただきました。

秋晴れの中、和やかな観察会となりました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

★新ハ水路で魚類調査を行います★

日 時 2023年 1月21日(土)、2月19日(日)、3月25日(土) 4月8日(土)
午前10時～午後4時ごろ

場 所 江戸川河川敷 ※事前にご連絡をお願いします。

持ち物 着替え、昼食、飲み物、首に巻くタオル、短くないソックス

◆詳しくは、「新ハ水路魚類調査」で検索し、ホームページをご覧ください。

HP (<http://shigenoril.jimdo.com/>)

～冬号でご協力いただいたみなさま～

Rさん、有泉桂子さん、石鍋壽一さん、瑛ちゃん、
江戸川の小鮒さん、江良ヒデ子さん、K・Nさん、慶蔵さん、
佐々木定治さん、散歩の花子さん、高橋雅子さん、tanionさん、
田村ひろ子さん、千葉美文さん、T・Kさん、となりさん、
トム姉さん、広瀬温さん、藤並剛さん、弥生さくら草さん、
ゆきひめさん、Ryuさん、
自主生物調査団(編集:一澤成典さん)

ご協力ありがとうございました☆彡

「水辺のふるさとかつしか」第323号
(葛飾区 自然環境レポーター通信第275号)

令和4年12月末 発行

葛飾区環境部環境課自然環境係
〒124-8555 葛飾区立石5-13-1
Tel.(3695)1111 内線3522~3
直通電話 (5654)8237
fax (5698)1538



◆「水辺のふるさとかつしか」の内容について、お間違い等お気づきの点がありましたらお知らせください。